

20020 環境生態学 Environmental Ecology		1 年次～ 後期 2 単位	
担当者	北 脩	履修可能学科	E Pe Pc C W F N
		関 連 資 格	
サブタイトル	化学物質の生物影響		
授業内容 ・ ねらい	<p>人間は、生活の利便性・快適性を求めて多種・多様なさまざまな化学物質を作り出してきました。それらの化学物質は最終的には環境に放出されることとなります。</p> <p>授業では問題を化学物質の生物影響に絞って検討していく予定です。また授業では理解を確かなものにするために可能な範囲で実験・観察を組み込んでいきたいと考えています。ここでの実験対象の化学物質としては、生活の中に深く入り込んでいる界面活性剤を考えています。界面活性剤は石鹼や洗剤としてはもちろん色々な食品の中にも様々な目的をもって含まれています。</p> <p>実験では石鹼や合成洗剤を用いてその生物影響について検討していきます。</p>		
授業計画	1～5、化学物質についての基本的事項の確認 ・無機物と有機物 ・意図的の化学物質と非意図的の化学物質 ・化学物質の生体動態 ・化学物質の毒性評価 6～9、界面活性剤の生態影響 ・界面活性剤の動物影響 ・界面活性剤の植物影響 10～14、化学物質による環境汚染 ・ダイオキシン類の汚染と生物影響 ・内分泌攪乱化学物質の汚染と生物影響	15、まとめ	
教科書 参考書	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。		
評価方法	出席状況。授業態度及びレポートの内容など総合的に評価します。		
事前準備学習 履修条件等			